お・や・じ・き・人立 めだかの学校だより

令和元年 11 月 1 日
第 106 号
学舎：周智郡森町一宮
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL：0539-62-6691

校長訓話

第一〇六回　校長　うめたちあき
（埋田 千聡）

令和を迎え、新元号出展の万葉歌が注目されました。私たちは万葉人の思いに心を寄せました。時代を越えても伝わってくる麗しい梅の香りや希望を感じ、歌が時代を越えることの奇跡を実感しました。

私は童謡詩人として、又シンガーとして、遠州、北遠各地をめぐって、故郷のイメージソングを書いて歌っています。時代と共に変わり行く風景や地域興しに寄せるみなさんの思いも、歌が次の時代へ届けてくれると信じ、活動を続けています。

日本の歌には想像力をかきたてる魅力があります。例えば「朧月夜」。

〜菜の花畠に　入日薄れ
見わたす山の端　霞ふかし
春風そよふく　空を見れば
夕月かかりて　にほひ淡し
里わの火影も　森の色も
田中の小路を　たどる人も
蛙のなくねも　かねの音も
さながら霞める　朧月夜

風景だけを淡々と描いている歌詞に、一切の感情の強要がありません。言葉と言葉の間に、そして行間に、人はそれぞれの故郷の風景を重ねることができます。それは行間が持つ魔法なのです。一枚の屏風画を眺めるのと似ているかもしれません。それぞれの風景や感情を重ね合わせられる余白があるからこそ、多くの人々に親しまれてきたのでしょう。

一方、映像技術が進化した今、映像音楽が子ども達の心を掴むようになりました。テレビやインターネットは子守役となり、母の背中で聴いていた歌は、画面の前で映像と共に、見て感じるものになりました。次々に転換する画面、アップテンポのリズムにのってたくさんの言葉が織り込まれ、子ども達を飽きさせません。しかし時に、余白を埋め尽くした過剰な表現は、子ども達が想像する時間を奪っていることを危惧しています。

「想像力」は、人の「やさしさ」に通じています。今の子ども達に、行間のある歌を伝えることは、やさしさを育む教育であると思っています。母の背中で聴いた歌を、次世代へと歌い継ぎたいと思いライブ活動で積極的に歌っています。

さて、令和元年最後のめだかの学校は、楽しくみんなで歌って過ごすことになりました。移り行く時代を越えて、そして心の壁を越えて、人と人とを繋いでくれる歌を、共に明るく歌いましょう。

第27期・第105回期初特別授業
カラー別刷4頁特別号

めだかの学校伝言板

第 106 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。
校　長／うめたちあき（埋田千聡）
教　頭／若尾和孝
用務員／別所慶則
給食係／大久保陽・村木謙弌・石野省三・中村やす代
加藤ひとみ・牧野久子・大谷香代子・山中幸子
今村純子・渡辺三ツ子(チーフ)
※お手伝いできる人はぜひお早めにお出かけを！

＜学舎＞静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」
TEL：0538-89-7730（開校日のみ）

開校日／令和元年 12 月 6 日（金）ＰＭ　6：20（受付）～
受　付／大場敬子・大橋町代・小林成彦・榊原幸雄（後見人）
27 期通年テーマ：『平成から令和へ、紡ぎ紡いで 27 年！』
今回のテーマ：≪　いった年　きた年　おない年～　≫

＜時間割＞特別授業　1 時限　1 時間
●1 時間目　音楽
「みんなで歌おう～好きな歌うたいたい歌」
音楽スタッフ：うめたちあき・若尾和孝
石野裕子・中村明男　の４先生！
【提出課題】全員提出
好きな歌（うたいたい歌）1 曲コメントをつけて！
●給食の時間　年越しご膳？　　9：30 閉校

めだかの動き
泳ぎ回るめだかたち

■第17回「全国まちづくり交流会」に参加して

「第17回全国まちづくり交流会」が、令和元年8月2日（金）～8月4日（日）の3日間、福島県飯舘村で、「飯舘村の新しいまちづくり」をテーマに開催されました。飯舘村といえば、平成の初め頃、農水省の全国『農村若妻の集い』で各県から集まった。静岡県は旧豊岡村（現磐田市）から、福島県からは飯舘村が参加。以来村ぐるみの交流が続いていて、原発事故発生と同時に『飯舘村を応援する会』を発足、今も活動している。私も一度訪ねてみたいと思っていたので、この機会に参加した。

飯舘村は、福島第一原発から30㎞も離れているのに、北西に吹く風向きによって村全体が避難区域となった。それも最初の爆発から10日以上、避難指示は更に1ヵ月後だった。穏やかな村の自然、家業、住居すべて奪われ、誰もが想像も出来ない悪夢の様な災難を受けいきなり避難生活とは…さぞご苦労があったでしょうに、このたびお逢いした方々みんな明るく前向きに説明下さり、災害復旧拠点として出来た『道の駅 までい館』は村民にとって貴重な物資調達の拠り所となっている。ここを中心に、こども園、小中学校、スポーツ施設、高齢者とのふれあいの場づくり、クリニック等々、住民一体となって活躍出来る場づくりができている。みんな明るく元気!!。最後に「帰宅困難区域」に入らせていただいた。

75世帯が住んでいた所だが、今は無人で、「立入り禁止区域」。ゲートの中では「特定復旧促進拠点事業」「除去土壌等減容化再利用」の技術研究施設で、環境省の職員が除染の研究をしている。日曜日だったので各地に避難している住民が集まって道端の草刈り、花壇の整備に精を出していました。

（今村純子メダカ）

■「かがり火」復刊10周年記念フォーラムに参加して

今年の5月、毎年我が家のお茶摘みツアーに参加してくださるかがり火の発行人である菅原さんより、復刊10周年記念フォーラムのお誘いメールを頂き「かがり火が主催する大きな集まりはこれが最後のような気がします。」とのコメント、これは何をおいても参加しなければと思いました。

そして10月19日「かがり火復刊10周年記念フォーラム」が開催され、行ってきました。会場の政策研究大学院大学はわかりにくい場所で何とか着くと受付でメダカ生の水島加寿代さんと以前かがり火の交流会でお会いした富山市の野入美津恵さんが出迎えてくれた。講堂に入ると溝口久さんと出っくわし会場の前部で隣にご一緒させて頂きました。

第一部記念フォーラムでは開会の言葉を西村一孝さんで始まり、復刊記念フォーラムの趣旨について、高知県馬路村農協の東谷望史組合長がかがり火の盛上げについて挨拶されました。首長サミットでは「人口減少を笑いとばす」というテーマで斜里町長の馬場隆さん、津別町長の佐藤多一さん、ニセコ町長の片山健也さん、弥彦村長の小林豊彦さん、飯田市長の牧野光郎さんがそれぞれの地域やかがり火に対する思いを述べられました。呼びかけ人の紹介とご挨拶では、かがり火の発行人である菅原歓一さんから壇上の呼びかけ人15名の皆さんをお人柄やかがり火との関係をユーモア交えて紹介、かがり火の編集長で哲学者の内山節氏の講演は「今私たちはどんな時代に生きているか」というタイトルで、先生の歴史感から昔と現在を比較され、「人と人との繋がりの中で全体の関係性を大事にしながらもう一度地域づくりをしなければならない時代になってきたとのこと」また役重眞喜子さんの講演は「嫁より先にベコ（牛）が来たから三十年」都市と農村の相互扶助の話でした。飯舘村菅野村長の講演は「原発の全村避難から新しい村づくりへ」というタイトルで「スペインのことわざとして「多くを持っていない人が寂しいのではなく多くを欲しがる人が寂しい」の言葉が印象に残りました。お三方の講演に続きかがり火に登場した人々が菅原さんの指名で次々に登壇され、菅原さんから取材の状況を交え感じたままの紹介があり鈴木厚正さんもそのお一人でした。

第二部交流会では、開会のあいさつ、呼びかけ人スピーチに続きサラダコスモ代表の中田智洋さんの音頭で乾杯。食事と歓談の立食パーティでは、呼びかけ人・支局長がそれぞれの思いでスピーチされ、名刺交換をしました。食事もそこそこに交流時間の二時間があっという間に過ぎてしまいました。豊田市の高野なおみさんから中締め・お開きの挨拶があり、めだかの学校のようにみんなが丸くなって手をつなぎ三回そろって手をあげてありがとうと呼称してお開きとなりました。

帰りは水島加寿代さんと一緒に帰宅、自宅についたのは午前零時でした。

（鈴木正士メダカ）

■遠州森町発第29回町並みと蔵展

第29回町並みと蔵展が、令和元年11月23日（土）～24日（日）午前10時から午後4時まで、森町の本町、仲横町、新町の町並みと蔵を中心として開催される。11月23日（土）午後1時から2時まで、旧城下学校（城下）谷本神社駐車場で、今回テーマである『城下の町並みと先駆者達』を演題に講演会がある。入場料は無料。問合わせは、事務局090・1472・6189榊原淑友メダカへ。

■令和元年豊岡東交流センターまつり

磐田市敷地の豊岡東交流センターでは、交流センターまつりを、11月24日(日)午前9時半から午後2時半まで開く。

体育館では豊岡中の生徒による太鼓やよさこい、キッズダンス、楽団演奏、交流センターで活動する団体、幼小中生徒のポスターなどの展示、視聴覚や講義室では生け花や陶芸、絵画などが展示される。ロビーではバラメダカのコーヒーショップ、お茶会、お昼には合唱も。野外では鈴木正士メダカの手打ちそば正士庵、渡辺三ツ子メダカのカレーショップ、お餅つき、いろいろのお店がでます。小銭を持ってお出かけください。問い合わせは0539・62・6669へ。

■ちょっとよこ道めだか道

高齢化が進む？めだかの学校。27期の申込書で年齢構成を覗いてみました。最年少は31歳。最高齢は83歳。年代別では、31～35才4名、36～40才3名、41～45才7名、46～50才7名、51～55才7名、56～60才8名、61～65才18名、66～70才16名、71～75才27名、76～80才9名、81～85才9名でした。あなたはどの年代に入っていますか？。好奇心・遊び心・挑戦心で元気に行きましょう！

『人・ひと・ヒト…だより』

●浜松市の石野裕子メダカ。浜松市笠井小の児童が町内の伝統行事を題材にした「だるま市」の詩に曲をつけた「だるま市の歌」を、10月9日に全校児童500人に披露、みんなで歌っただって。11月3日には笠井町の福来寺で開かれる「大好き笠井文化祭」でも希望児童が合唱したり、来年1月10日には福来寺での「だるま市」で6年生が歌を披露する、と。歌といえば第105回めだかの学校での校歌斉唱、伴奏の石野裕子メダカ〝突然ヒヤ～〟ととび出す。速い！村木用務員タツタツタと柱をバンバン、コロッとアブ。「まア神社だからいいか」だって。…♪そっとのぞいてみてごらん…歌はそのままつづく…(笑)。

●横浜市の山根圭二メダカ。『平成から令和へ、紡ぎ紡いで27年』。《令和の時代のアナログ？！そのこころは…》第27期の通年テーマと、第105回のテーマに、『決まったア、決めてらっしゃる～拍手』だって。第106回テーマには何て言ってくるかなア、(笑)。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。第105回の校長でパネラー。「めだかの学校がここまで続いて来た㊙が確認できました。ユルクて、いい加減と申しますか、バラ流のファジーさがめだかの連中の住む水温と同じようなもの、つまり棲息環境が、バラメダカと全く同じ！。その事を再認識しました。」だって。そうだねの声しきりでございます。ハイ。

●岐阜県坂祝町の長谷川政夫メダカ。満開のそばの花が咲くそば屋で楽しむ『花と女性と、亀谷秀司絵画展』を、10月31日までやっています。だって。そばの花の時期は、深萱ふ～どの前の畑に、真っ白なそばの花でいっぱい。こだわりの新そばもいいね～。

●磐田市の鈴木正士メダカのそば畑もそばの花で満開。それがなんと、2、3日見ない間に白いそばの花がない。食いかじられたような茎だけが残っている。このごろシカの鳴く声を聞いているので、そば畑の状況から、シカにやられたかも知れない、とのこと。我が家の「新そば」諦めて、だって。

●掛川市の鳥山剛メダカ。10月15日我が家にアサギマダラが2匹、掛川市の倉真小学校と真砂館、知人宅に一匹づつ飛来した。バラさんのところにも来ると思うヨ、だって。私のところには14日2匹来て、15日にはいなかった。16日には一匹来て、1時間ほどいてどこかへ飛んでいった。なんせ2000キロの途中だから長居はできないのかもね、とバラメダカ。どう来年、庭の片隅にフジバカマを植えて、美しいアサギマダラ蝶のいっぷく処をつくってみたら…

●埼玉県所沢市のガーデンデザイナーの木村智子メダカ。花を使っての公園づくりやコミュニティづくりを高齢化のすんだUR団地などでやっている。清瀬市の花のある公園づくりプロジェクトでは、ワークショップをやりながら、がっつりと取り組んでいる、だって。フジバカマ植えてみたらおもしろいかもね。

●磐田市の冨田久美子メダカ。「秋の一日もみじと音といっしょにすごしませんか」。11月22日（金）昼から24日（日）の昼まで、草木染め作家の草笛由美子メダカの空間アート、妖精、天女などジャンルにこだわらない作品展をやります。11月23日（土）午後1時から八代英夫さんの演奏もあります。場所は磐田市北部の獅子ケ鼻トレッキングコース手前の古民家で。ぜひお出かけください、だって。

●松戸市の滝川徹メダカ。出版社を引き継いで「石橋をたたいて渡るネット株投資術～シルバー世代の小遣い稼ぎを」を初出版。海象社のHP見てね、だって。HPを見ると、(有)海象社は東京渋谷にあり、「石橋をたたいて―」の著者は千葉商科大学名誉教授の三橋規宏さん(元日経新聞論説副主幹)、定価1460円(税別)う～ん、老後2000万円の時代？！。いやはや手持ちもなく、パソコンも満足に使えずでは、小遣い稼ぎもできないよねえ。

●飯田市の長谷部三弘さん。十分な用意も資料も持たずにぶっつけ本番。安易な対応に汗顔の至りです。パネラーの役目を果たせず反省しきりです。一度は伺ってみたかった「メダカの学校」です。ユニークな校則の学校運営、楽しく、面白く体験することができました。また、多彩で個性豊かなメダカたちの集い。驚きと同時に敬服いたしました。105回もです。三遠南信道が全通したら身近になります。取り急ぎ所感とお礼まで、と。個性的な四者四様のパネルディスカッション、良かったですよ。「ひさかた風土舎通信」に掲載ありがとうございます。

●浜松市の水島加寿代メダカ。10月10日の中日ショッパー系タブロイド判「ゲンキのヒント」紙に『おもしろ人立めだかの学校　27年目に突入したその魅力とは？』と、9月7日小國神社大宝殿で開校した第105回めだかの学校のレポ記事を掲載。めだかの学校の誕生からの経緯や、学舎で授業風景、都田ダム湖での水源まつりの筏乗り、給食当番の手作り弁当などの写真も使っての記事内容。石野省三メダカ「永久保存版ものだね」だって。何人かの人から問い合わせも。新聞は第106回目めだかの学校の時掲示します。楽しみに。

●浜松市の小野田宗弘メダカ。高校の美術の教諭。体育会系美術部なので、土日も部活です。地域のイベントチラシや施設等の看板の依頼も良く受けています、だって。めだかの学校30周年の時にはチラシや看板頼もうかなぁ～。

●磐田市の藤森照明元メダカ。そろそろ再入校を考えています、だって。浜松市の別所慶則メダカも、磐田市の安形恵子メダカも入校しましたよ。浜松市の野末かつ子元メダカも再入校したいだって。待ってますよ。

《新入生紹介》

●浜松市の別所慶則メダカ。ベテラン鍼灸師。阪神大震災のとき単身、医療ボランティアで被災地へ。平成7年2月18日の「阪神大震災めだかのチャリティコンサート」で被災地の現状を報告してくれました。

●磐田市の安形恵子メダカ。袋井市職員で、袋井健康センターのセンター長。市外の人も相談にのってくれるかな。何はともあれ食べることと体を動かすことは必ですね。第100回大同窓会に出席、第105回から入校。

●掛川市の横山忠志メダカ。掛川市の職員。遠州横須賀の町おこし活動のお節介役。いつでもお声掛けを、だって。再入学です。

×××　　×××

もっともっと載せたかったのですが、紙面の都合で今回はこれまで。

※お知らせ

今回《めだか春秋》は休ませて頂きます。次回107回は鈴木武史メダカ。楽しみに。

トピックス

※トピックスは事務局だよりに譲りました

■事務局だより

テレビや新聞などで台風15号、特に台風19号の豪雨で、長野・東京・茨木・埼玉・宮城の河川が決壊し洪水被害の状況が繰り返し報道されている。そのような中、天皇陛下の即位を内外に宣言する「即位正殿の儀」が、国内外から約１８０の国の元首や王族、政府高官らが招待されて行われた。天皇は古式装束「黄櫨染袍」を着て、皇后は十二単。天皇は「高御座」に上り、「…国民に寄り添い…」お言葉を述べた。これら綿々とつづく伝統の国事行為は、日本国民の心棒となっているのかも知れない。開校27年目の「めだかの学校」、こちらは伝統ではなく継続。いい加減な仲間意識と「好奇心と遊び心と挑戦心」の『建学の精神』か。

さて、第27期、第１０５回めだかの学校は、期初特別授業で、『建学の精神（こころ）』を唱和する。日程は通常日程より一日ずらして令和元年９月７日（土）・８日（日）の一泊２日。27期の通年テーマは『平成から令和へ、紡ぎ紡いで27年』。第１０５回のテーマは《令和の時代のアマログ？！、そのころは…》。会場は小國神社の大宝殿。校長花井孝、教頭大島たまよ、用務員村木謙弋。３人の粋もぴったり。会場といい雰囲気もいい。14時大島教頭の「気をつけ礼」で始まる。

校長訓話。「めだかの学校だより」を手に花井校長、私には人生五大自慢があるが、五番目の、清水駅の個室型ＡＴＭで、冷静さを失って聞く耳持たずの高齢女性の振り込め詐欺を未然に防いだことで警察から感謝状を頂戴したなど、高齢化が進むめだかの学校生に好奇心あふれる少年少女のような爺婆を目指そう！と語る。事務局からは次期三役の発表。第１０６回校長埋田千聡、教頭 若尾和孝、用務員 再入校の別所慶則。給食当番も決める。

いよいよ３時から『パネルディスカッション』。並びは左からコーディネーターの溝口久メダカ。パネラーは若い順に後期高齢化入りした花井孝メダカ、同じく75歳の菅原欽一メダカ、82歳の鈴木厚生さん、87歳の長谷部三弘さん。先ずは「ふるさと納税で有名な小山町で町づくりを…」と溝口久メダカ。「残りの４つの自慢話しは？」と声をかける。花井メダカ「元プロのレーサーでアメリカなどでも走った。後輩が優勝して…。美濃和紙を使った美濃加茂市の『あかりアート』が総理大臣賞をいただいて、その関係で天皇陛下（現上皇）が美濃加茂市に見えられた時、招待されて拝閲したが緊張で顔も上げられなかった、など話す。２番目の菅原欽一メダカ。元は主婦の友の芸能記者、有名な美人俳優とも会った。“かがり火”は、大手メディアなどでは取り上げられない、地域で地道に活動している人たちを取材している。隣の鈴木厚正さんの行動の凄さなど熱っぽく語る。３番目の鈴木厚正さん、菅原さんの話を受けつつも、財産は残さない。自由に楽しく遊ぶ。廃原発で、夏もクーラーも扇風機も使わない、病院も行かない。など、元気そのもの、と。４番目の87歳の長谷部三弘さん、45分待ってるのは大変。冊子化された風土舎通信を手に、溝口久メダカ声をかける。元飯田市の職員で、『風は土を舞い上がらせる。風はよそ者、土は土着民』。退職後、風土舎を始めたキッカケや地元上久堅での活動などを語る、４人が話し終えたところで休憩をとり、会場の生徒に紙を配り、質問したいことを書いてもらって後半につなげる。たくさんの質問が出たが、五者五様の解答。あっという間の楽しい２時間だった。謝礼はマスクメロン。いや～いい笑顔でした。

５時からの『給食＆交流会』。お弁当は外からの取り寄せ、それだけではさびしいと、渡辺チーフ、ゴーヤ煮物、マツタケ汁、りんご、イノシシ肉の燻製（こちらは鈴木格子メダカ）を出す。ビールやお酒も。飲酒運転はダメです。７時半の終了予定が、締めるに締められずなんと８時半に終了。雰囲気は四頁カラー特別号で見てね。出席できなかった生徒も、その場にいたつもりで味わって頂ければうれしいです。あとは大きな輪を作って「今日の日はさようなら」を歌いつつ握手してお別れ。多くの生徒は帰宅。宿泊生は14名だった。翌日は６時起床。小國神社のトイレの掃除をして、味噌汁と美味しいご飯の朝食を頂いて、８時半に閉校する。

第１０６回めだかの学校の職員会議を、10月３日(木)学舎で開く。埋田千聡校長、若尾和孝教頭、別所慶則用務員は欠席。校長のあいさつのあと、第１０６回のテーマと授業内容を話し合う。色々意見は出たが、今回は校長と教頭は音楽が得意なのでその方向でいこう、と、「12月、ゆく年くる年は…」の案をちょっとひねって、《いった年 きた年 おない年》にする。授業は「みんなで歌おう、歌いたい歌を提出課題にして」音楽にする。経費はかかるが提出課題もあるので返信ハガキを同封することに。返信は11月20日必着。全員提出のこと。

■第27期の受付をしています。

第27期は、令和２年８月31日までです。毎年度入校手続きが必要です。まだ済ませていない生徒は、至急提出してください。名簿からはずれ自主退学となります。新しく入校を希望する方がいましたら事務局まで電話ください。資料と申込書を送ります。

■今回も遅れました。ごめんなさい。

いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、本島慎一郎メダカ、鈴木武史メダカ、特別号の大杉昌弘メダカ、水島加寿代メダカ、バラメダカもメールに挑戦、失敗もしました。まとめてくださる間渕亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。特別号は大進堂のデザイナー伊藤良さんありがとう。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、令和２年２月１日予定。締切１月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙かファックスで。待ってます。メールの方は、《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》間渕亮太０９０・５００９・０９８６です。（メールの方は割付の関係もあるのでご一報を。）

■めだかの学校の事務局

〒４３８・０１０５静岡県磐田市家田５２９番地２０　榊原幸雄方　ＴＥＬ ０５３９・６２・６６９１（ＦＡＸ同じ）

※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮３１５０。電話 ０５３８・８９・７７３０　開校日の午後４時以降のみ使用可。

携帯 ０８０・１６１２・９１３０